



徳島県国土整備部建設管理課

770-8570 徳島市万代町1丁目1番地 tel.088-621-2523

協力

(一社)徳島県建設業協会

株式会社大竹組・有限会社高木建設・株式会社亀井組・井上建設株式会社

2020.03.13



いま、いちばん アツい



 徳島県
TOKUSHIMA Pref.



建設業って何するの？

KNOW 01

安全・安心・住みやすい地域づくり。 それが建設業の仕事です。

建設業の役割 1

僕たちの身近にあるものは、
「土木」と「建築」に分かれます。



暮らし・地域・社会を「つくる」

私たちの暮らしの周辺を見回してみてください。道路や堤防、港、学校、病院など、様々な社会基盤と建造物があって、今日も街と暮らしが動いています。これらはすべて建設業の仕事。建設業は、暮らし・地域・社会をつくる大切な仕事です。

土木

建築

土木

インフラ(社会基盤)をつくる

大きな自然を相手にする大きさ

自然に向き合い、みんなが便利に安全に暮らせるよう、交通、防災、生活、通信、様々なインフラを整備します。

- 道路 ●トンネル ●橋 ●堤防 ●ダム ●鉄道 ●港
- 上下水道 ●通信施設など



建設中の四国横断自動車道



富川内ダム

建築

街をつくる

カタチをつくりあげる面白さ

我が家に始まり、毎日、当たり前利用しているありとあらゆる建物を築き上げ、街をカタチづきます。

- 住宅 ●学校 ●病院 ●美術館 ●公園
- ショッピングモール ●工場など



あすむらんど子ども科学館 天井改修工事



徳島科学技術高校 スポーツ施設新築工事

建設業の役割 3

地域とともに地域のために

建設業の仕事は地域あってこそその仕事です。「建設業は地域のためにある!」そして、「地域に魅力があれば、人材も集う!」そんな気持ちで地域活動に力を入れる企業が増えています。

いろんなイベントは、
関わってるぞ!



「徳島」に元気を!

アドプト事業で地域の環境保全を担ったり、中高生の職場体験の機会をつくったり、子育て支援事業に参画したり。さらに、防災訓練、清掃活動、祭りなどの様々な地域行事への協力など、どの企業も地域を元気にしたいという思いで活動しています。

建設業の役割 2

「そなえる」「まもる」

新しいものを「つくる」だけでなく、災害に「そなえる」こと、国民のいのちと財産を「まもる」ことも建設業の大事な役割です。近年、各地で多くの自然災害が発生していますが、災害現場では地域の建設業者が活躍しています。

災害に「そなえる」

大災害が起こったとき、できるだけ被害を小さくとどめて産業を継続し生活を維持できるよう、道路や建造物の耐震強化、防潮堤の建設や河川の堤防のかさ上げ、橋脚補強、トンネルの点検補修などに取り組んでいます。



徳島中央高等学校 校舎耐震補強



那賀川堤防

暮らしを「まもる」

発災時には、地域のことをいちばんよく知る地元の建設業者が被災現場に真っ先に駆けつけ、自衛隊や消防、警察の活動が行えるように、ガレキや倒木で閉ざされた道をひらきます。「道路啓開」の任務です。食料などの輸送路も確保し、地域の暮らしをまもります。



除雪作業



崩落した土砂の撤去

道路を通れるようにする大事な役目ぞね!



お仕事体験イベント

現場体験

2019年に初開催され大きな話題となった「にし阿波の花火大会」も、会場設営や当日の運営を建設業者が担い、たくさんの人々に楽しんでもらえました。仕事とは別のやりがいにつながり、それぞれの社員の地域を愛する気持ちにつながっています。



にし阿波の花火

チームで「ものづくり」

建設業は、工事の種類ごとに、土木一式工事と建築一式工事の2つの総合工事と27の専門工事、合わせて29種類に分類されており、様々な技術者や技能者がそれぞれの専門分野の能力を発揮しながら、協力してひとつのものを造りあげていきます。

建設業 29業種	■土木事業	■電気事業	■しゅんせつ事業	■電気通信事業
	■建築事業	■管事業	■板金事業	■造園事業
	■大工事業	■タイル・れんが・ブロック事業	■ガラス事業	■さく井事業
	■左官事業	■鋼構造物事業	■塗装事業	■建具事業
	■とび・土工事業	■鉄筋事業	■防水事業	■水道施設事業
	■石工事業	■舗装事業	■内装仕上事業	■消防施設事業
	■屋根事業		■機械器具設置事業	■清掃施設事業
		■熱絶縁事業	■解体事業	

「i-Construction」で建設業が 変わる。 若い力が最前線で大活躍。

ICT(情報通信技術)を活用した「i-Construction」により、今、建設業の世界は大きく変化しています。若い世代がICTや新しい発想を活かしてキャリア形成を図ることのできる、魅力ある産業へと生まれ変わろうとしているのです。

CASE 1

情報処理はお手のもの ICTがボクに価値を与えてくれた

工務部
西田 昂平
入社4年目



資格もなく不安定な日々にはサヨナラ

高校を卒業して建設会社に就職したのですが、特に資格も持っておらず、日給月給で休みも不確定。これでは未来はないなと思いはじめた頃、今の会社が新しいことやってておもしろそうだと仲間から聞いたんです。

ICT施工っていうんですが、うちは県内でもっとも早く取り組んだ企業の一つです。例えば、3次元レーザースキャナーを使って物の表面や地形などをデータ化したり、これまでは技術者にしかできなかった測量や設計などが、慣れれば誰にでもできてしまうのです。

ICTとの出会い 「仕事」の楽しさを知る

入社当時は何の資格も技術もなかったのですが、やらせてもらえて、できるようになったらすごく面白いし、現場での工事が早く正確になる。先輩からも重宝がられて、ただの作業をしているときとは、仕事の価値がまったく違う。それが嬉しくて頑張る。頑張ればもっと高度な

こともできるようになる。

入社4年目ですが、今回、バイパス道路整備に伴う高架橋の下部工事で現場管理を任せられました。工事に当たって、従来の施工方法では現場の組み立てが危険で重労働だったことから、3次元図面でシミュレーションしてやり方を変更したんです。そうしたら作業効率や安全性が格段にアップして、めちゃ嬉しかった。この件で、全国建設業協会の技術研究発表会で最優秀賞をいただきました。

ワークシェアリングで 職場もいい感じ

ベテランの先輩たちは、監理業務や書類作成などで助けてくれる、ボくら若手はどんどんICTを使いこなす。いいワークシェアリングが成り立っています。もう「きつい」「汚い」「危険」の現場ではなく、女性の工務課長もいて、仕事する姿マジでカッコいいですよ。



変わる。

i-Constructionが目指すもの

一人ひとりの生産性を向上させ
企業の経営環境を改善



女性や高齢者等も活躍!!
多様な人材の活用



建設現場での
死亡事故ゼロに



賃金水準の向上を図るなど
魅力ある建設現場に



いろいろ
考えられて
いるんだね



CASE 2

ICT建機が教えてくれた ものづくりの醍醐味

工務部
坂口 龍希
入社1年目



親父の背中を追って

仕事する姿がかっこよくて、子どもの頃からいつか親父を超えたいと思っていました。親父は型枠大工でした。高校1年のとき、勉強するより働きたいと学校を中退。この会社に入社しました。中卒だし、なんの資格もなかったけれど、見よう見まねで型枠づくりを覚えながら、重機の運転の資格もとらせてもらいました。社長が「i-Construction」にとっても熱心で、何台も保有しているICT建機にもすぐに乗らせてもらえるようになりました。今は、吉野川の築堤工事を担当しています。

もっともっと挑戦! ICTを使いこなす日を目指して

ICT建機には自動制御機能が搭載されていますから、少し進んでは確認するという、これまで何度も繰り返す行わなければならなかった作業が省略できる上、ミリメートル単位の細かい設定もできますから、初心者でもすばっと綺麗に造作ができます。つくることがとても面白い

し、現場が仕上がったときはチョー嬉しくて、やりがい感じます。

先輩たちはレーザースキャナーをつかって3次元図面を描いたり、ドローンで測量したり、親父のころとはぜんぜん違いますよね。ボクも建機の操作だけでなく、ICTにもっと挑戦したいです。この会社はそれをさせてくれる会社なんです。

地域の役に立っている そんな実感が嬉しい!

社長が口を酸っぱくして、建設業は地域のための仕事だと言ってます。今までそんなふうには思っていたことはなかったけれど、確かにそうしてきたのが建設業。この堤防でみんなの命を守るって、すごくないですか(笑)。自分のための仕事、世の中のためになっている...堤防づくりながらそんなこと考えて、今は仕事に夢中です。





3Kなんてもう言わせない!

KNOW 03

生産性アップで働き方が変わる。 ワークライフバランスとやりがいがいと。

「i-Construction」の導入や「規格の標準化」「施工時期の平準化」により、生産性が格段にアップすることで現場にワークライフバランスを追求するゆとりが生まれています。また、安全性が向上し、女性の活躍を力強く後押し。誰にとっても働きやすく働きがいのある職場を目指しています。

働く人の声 01

週休2日や有給で 趣味もめいっぱい楽しめる

— 営業部 尾形 佳祐 入社3年目



希望して、現場監督から営業に

新卒で入社し、現場監督をしていましたが、人と関わるのが好きなので営業職を希望し、配置転換してもらいました。個人の適性を考え、希望をよくきいてくれる会社で、私とは逆に、長年事務方を務めた後、土木の現場監督になった女性もいます。建設業の世界って専門学部を出て知識や技術のある人でなければと思われがちですが、例えば現場監督に大事なものはコミュニケーション能力や人を束ねる力ですから、専門学部出かどうかは大きな問題ではないですね。建設業のどの職種も経験を積んでいく仕事なので、知識より働く姿勢が大事です。資格に関しては、会社には指導員のような立場の上司もいて、取得を

応援してくれています。私も今、ある資格に挑戦中、仕事しながら勉強できるありがたい環境です。

建設業界でも進む、働き方改革

今、他の業界もそうですが建設業においても働き方改革がすすみ、週休2日が推進され、有給5日の取得等が義務化されました。もちろん、現場では工期と相談しながらになりますから、一気に100%実現させるのは難しいですが、クライアントの理解も得ながら前へすすめていっています。

3Kから新3K「給与」「休暇」「希望」へ

私は入社後の時間と週末は中学生の頃から続けているバレーボールを楽しんでいます。この時間があるから、また仕事も頑張れるって感じで、どちらも大切です。

昔から建設業は「きつい・汚い・危険」なんてひどい言われ方をしてきましたが、もうまったく違う。現場にはICT建機があり、ドローンが飛び、女性の監督や重機オペレーターがいる。カッコいい業種に変身しています。「給与」もいい「休暇」もとれる「希望」が持てる、新3Kって声を大にして言いたいです。



働く人の声 02

ゆとりが生まれる モチベーションが高まる

— 建築部 廣澤 祐太 入社4年目

働き方が変わって、オンもオフもより充実!

大学の工学部建築学科を卒業し、現場監督をしています。入社して4年目ですが、働き方は目に見えて変わってきています。特に国の公共工事では、最初から週休2日で工程が組まれています。民間工事等においても、一足飛びの変化は難しいですが、そういう流れをつくっていった状況です。

休日はゴルフ、釣りが楽しみです。同じ現場の協力業者の方々とも行きます。「とくしまマラソン」にも挑戦しています。有給休暇も取りやすくなり気持ちに余裕ができましたし、十分休むことが仕事へのモチベーションにもつながっています。今年、難関と言われる一級建築士の試験にも合格できたんですが、これも勉強にあてる時間があつたおかげだと思います。



女性の活躍はいい刺激

女性が建設業界で活躍するようになってきたのも、働き方改革の効果ですね。例えば、現場に女性の視点を活かす「なでしこパトロール」が行われ、災害時に地域の枠を超えて賛同企業が協力する「なでしこBC連携」が生まれています。このことで、これまでになかった、地域の枠を超えた横の連携がすすむとともに、他社の取り組みを知ることが良い刺激になり、仕事に対する意識、防災に対する意識に変化が生まれています。



達成感はハンパない、新たな可能性もいっぱい

私自身、仕事から距離を置く時間ができると、自分の現場を客観的にみるゆとりができました。働き方改革をもっと前へ進めるには、作業の効率化が欠かせませんから、ICTの力を借りるとともに、現場監督としての力量も問われていると思います。出来上がっていく過程のおもしろさと完成時の達成感がハンパないし、新たな可能性いっぱいこの仕事が好きです。

A社の現場の1日

現場へ出勤

現場監督とスタッフ間で、作業の順番や注意事項を確認し、その日の仕事で想定されるリスクへの対応策を考えて、仕事スタート。

8:00

休憩

必ず、1日2回@15分の休憩を取ります。特に夏場は熱中症対策を万全に。現場にクーラーボックス、製氷機を備え、飲み物も会社が用意してくれます。

10:00

午後の仕事

現場監督は作業の指示をするとともに、現場の進捗状況やスタッフの安全確認を行います。これ以外にも、図面作業、写真整理などの事務作業もこなします。

12:00

13:00

休憩

1日2回の休憩以外にも気象状況に合わせて、こまめな休憩の指示が会社から各スタッフにSNSで届きます。

15:00

終業

現場から直接帰宅します。定時に終わるので、趣味の時間も家族との時間もちゃんと予定通りに確保できます。日曜日は完全に休み、現場によっては週休二日も実現しています。

17:00

ちゃんと休憩もあって働きやすそう!

